HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Association between social activity and development of dementia in hearing impairment: A cohort study in Japan from Japan Gerontological Evaluation Study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小島, 香 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004358

論文審査の結果の要旨

認知症の危険因子のひとつに聴覚障害がある。軽度の聴覚障害であっても、長期的には認知機能低下や認知症発症のリスクが高くなる。聴覚障害の対策として、補聴器の使用以外の認知機能を維持するための手段の検討が必要である。これまで、聴覚障害者における認知症発症の関連因子は報告されていない。今回、高齢者の追跡調査により認知症発症のリスク因子の検討を行った。本調査は、日本福祉大学、国立長寿医療研究センター、千葉大学、浜松医科大学（18-018）の倫理審査委員会の承認を得て行われた。

日本老年学的評価研究プロジェクトの調査データを解析した。要介護認定を受けていない高齢者（男性 24534 人、女性 29015 人、平均年齢 73.62 才）を対象として郵送による自記式質問形式で行われている。聴覚障害ありは 4039 人、聴覚障害なしは 49510 人、平均追跡期間 2063 日であった。結果は、聴覚障害ありの認知症発症割合は 21.3%、聴覚障害なしの認知症発症割合は 10.4%であった。調整変数を考慮した分析において、社会活動と認知症発症までの時間との関連性を検証した生存分析の結果、社会活動頻度が高い群に比べて、活動頻度が低い群で認知症発症に対するハザード比が有意に高かった。聴覚障害者では社会的活動が少ない人で認知症の発症リスクが高いことが明らかとなった。社会的活動の内容として、特にスポーツの会（ハザード比 2.17）と趣味の会（ハザード比 1.70）に参加することで聴覚障害者の認知症を予防できる可能性が示唆された。

審査委員会では、大規模コホート研究により、聴覚障害のある人の社会的活動と認知症発症の関連を明らかにし、聴覚障害者の社会的活動への参加で認知症の発症リスク軽減につながる可能性があることを示した点を高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　三澤　清
　　副査　山末　英典　　副査　山内　克哉